

取 受 印



措置入院者の定期病状報告書

令和 年 月 日

病院名  
 所在地  
 管理者名

広島県知事様

措置入院者	フリガナ				生年月日	明治 令和	年	月	日	生
	氏名	(男・女)				大正 昭和 平成				
措置年月日	住所	都道府県	郡市区	町村区	昭和 令和	年	月	日	入院形態	
	昭和 平成 令和	年	月	日	平成 令和					年
前回の定期報告年月日	平成 令和 年 月 日									
病名	1 主たる精神障害			2 従たる精神障害			3 身体合併症			
	ICDカテゴリー ( )			ICDカテゴリー ( )						
生活歴及び現病歴	(推定発病年月、精神科受診歴等を記載すること。)  (陳述者氏名 続柄 )									
初回入院期間	昭和 令和 平成 令和 年 月 日 ~ 昭和 令和 平成 令和 年 月 日 (入院形態 )									
前回入院期間	昭和 令和 平成 令和 年 月 日 ~ 昭和 令和 平成 令和 年 月 日 (入院形態 )									
初回から前回までの入院回数	計 回									
仮退院の実績	過去6か月間(措置入院後3か月の場合は3か月間)の仮退院の実績を記載すること。 計 回 延日数 日									
過去6か月間(措置入院後3か月の場合は過去3か月間)の治療の内容とその結果	(問題行動を中心として記載すること。)  今後の治療方針 (再発防止への対応を含む)									
処遇、看護及び指導の現状	隔離	i 多用 ii 時々 iii ほとんど不要								
	注意必要度	i 常に嚴重な注意 ii 随時一応の注意 iii ほとんど不要								
	日常生活の介助指導必要性	i 極めて手間のかかる介助 ii 比較的簡単な介助と指導 iii 生活指導を要する iv その他 ( )								

提出年月日：令和 年 月 日 (入院者氏名： )

重大な問題行動 (Aはこれまでの、Bは今後起こるおそれのある行動)		現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像(該当のローマ数字及び算用数字を○で囲むこと。)	
1 殺人	A B	<現在の精神症状> I 意識 1 意識混濁 2 せん妄 3 もうろう 4 その他( )	
2 放火	A B	II 知能 ( 軽度障害 , 中等度障害 , 重度障害 )	
3 強盗	A B	III 記憶 1 記銘障害 2 見当識障害 3 健忘 4 その他( )	
4 強制的性交等	A B	IV 知覚 1 幻聴 2 幻視 3 その他( )	
5 強制わいせつ	A B	V 思考 1 妄想 2 思考途絶 3 連合弛緩 4 滅裂思考 5 思考奔逸	
6 傷害	A B	6 思考制止 7 強迫観念 8 その他( )	
7 暴行	A B	VI 感情・情動 1 感情平板化 2 抑うつ気分 3 高揚気分 4 感情失禁 5 焦燥・激越 6 易怒性・被刺激性亢進 7 その他( )	
8 恐喝	A B	VII 意欲 1 衝動行為 2 行為心迫 3 興奮 4 昏迷 5 精神運動制止 6 無為・無関心 7 その他( )	
9 脅迫	A B	VIII 自我意識 1 離人感 2 させられ体験 3 解離 4 その他( )	
10 窃盗	A B	IX 食行動 1 拒食 2 過食 3 異食 4 その他( )	
11 器物損壊	A B	<その他の重要な症状> 1 てんかん発作 2 自殺念慮 3 物質依存 ( ) 4 その他( )	
12 弄火又は失火	A B	<問題行動等> 1 暴言 2 徘徊 3 不潔行為 4 その他( )	
13 家宅侵入	A B	<現在の状態像> 1 幻覚妄想状態 2 精神運動興奮状態 3 昏迷状態 4 統合失調症等残遺状態 5 抑うつ状態 6 躁状態 7 せん妄状態 8 もうろう状態 9 認知症状態 10 その他( )	
14 詐欺等の経済的な問題行動	A B		
15 自殺企図	A B		
16 自傷	A B		
17 その他( )	A B		
診察時の特記事項	(被診察者の受診態度、表情、言語的及び非言語的なコミュニケーションの様子、診察者が受ける印象等について記載すること。)		
本報告に係る診察年月日	令和 年 月 日		
診断した精神保健指定医氏名	署名		

審査会意見	
都道府県の措置	

記載上の留意事項

- 1 [ ] 内は、精神保健指定医の診察に基づいて記入すること。
- 2 今回の入院年月日の欄は、今回貴病院に入院した年月日を記載し、入院形態の欄にそのときの入院形態を記載すること。(特定医師による入院を含む。その場合は「第33条第1項・第3項入院」、「第33条第2項・第3項入院」又は「第33条の7第2項入院」と記載すること。)なお、複数の入院形態を経ている場合には、順に記載すること。
- 3 生活歴及び現病歴の欄は、他診療所及び他病院での受診歴をも聴取して記載すること。
- 4 生活歴及び現病歴の欄は、前回報告のコピーの添付でもよいが、新たに判明した事実がある場合には追加記載すること。
- 5 平成20年3月31日以前に広告している神経科における受診歴を精神科受診歴等を含むこととする。
- 6 初回及び前回入院期間の欄は、他病院での入院歴・入院形態をも聴取して記載すること。
- 7 重大な問題行動の欄には、Aはこれまでに認められた問題行動を、Bは今後おそれのある問題行動を指し、該当する全ての算用数字、A及びBを○で囲むこと。
- 8 現在の精神症状、その他の重要な症状、問題行動等、現在の状態像の欄は、一般にこの書類作成までの過去数か月間に認められたものとし、主として最近のそれに重点を置くこと。
- 9 診察時の特記事項の欄は、被診察者の受診態度、表情、言語的及び非言語的なコミュニケーションの様子、診察者が受ける印象等について記載すること。
- 10 診断した精神保健指定医氏名の欄は、精神保健指定医自身が署名すること。
- 11 選択肢の欄は、それぞれ該当する算用数字、ローマ数字等を○で囲むこと。